

リレー連載
物流が「見た」
道路交通計画

物を運ぶ貨物車が高速道路や一般道路での渋滞や交通事故が原因で遅配したり配送できない場合がある。このような問題は、交通管理計画で解消できる可能性がある。

経済送輸



江守 昌弘氏（えもり ますひろ） 昭和38年生まれ。神戸大卒。技術士、APCエンジニア。建設技術研究所東京本社交通システム部部长

物や一般道路での渋滞や交通事故が原因で遅配「分ける」は、貨物車と乗用車が走行・駐車する空間や時間を分離すること。貨物車に対し①専用道路・優先道路を指定する②通行時間規制③貨駐車時間規制——といった対策が考えられる。

交通管理計画とは、交通規制や交通誘導の対策を実施することで、道路の危険防止や交通の安全と円滑の確保を図ることである。この交通管理計画の考え方を「分ける」「減らす」「換える」の視座に変えること。情報提供に「減らす」「換える」は、貨物車の走行する路線や時間を「減らす」換えること。情報提供に「減らす」換えること。

交通管理計画と物流事業者

第5回

トラックルートやトラッククレーンがある。これは、貨物車が走行する道路や車線を指定して市街地へ流入することを抑制する対策である。東

よる誘導や時間や路線ごとの高速道路料金割引などがある。道路を指定し貨物車と乗用車を分ける事例では、アメリカのニューヨーク市で実施されている

流入規制逆手に物流を改善

物流事業者は、交通規制に従い、交通誘導を上手に活用して、業務を改善していく方法を考える

京都で実施している地域内への時間流入規制がある。これは、東京都心部（環七通り内側、環八通り内側の一部）で、大型トラック（積載量5t以上）上または総重量8t以上の車両）の土曜日の夜間走行を禁止（午後十時から翌朝七時まで）するもの。他にも、貨物車に対する商店街への特定時間帯の流入規制がある。

情報提供による誘導には、国土交通省が整備を進め、今後普及が予想されている「ETC2.0」による情報提供がある。ETC2.0は走行する車両に渋滞や交通規制などの道路交通情報をリアルタイムに提供するものである。

	分ける	減らす	換える
交通管理	<p>【規制】</p> <p>①貨物車専用道路・優先道路指定（実例：トラックルート・トラッククレーン）</p> <p>②貨物車の通行時間規制（実例：東京都心時間流入規制）→配送時間や配送手段の工夫</p> <p>③駐車時間規制</p>	<p>【誘導】</p> <p>④路上荷さばき施設</p>	<p>【誘導】</p> <p>⑤情報提供（実例：ETC2.0）→ETC2.0の早期導入、交通情報の分析によるルート管理</p> <p>⑥高速道路料金の割引</p>

配送方法を変えるため規制対象外の地域で荷さばきし、台車で目的地まで運ぶ場合が考えられる。もう一つは、交通情報を入力して輸送ルートを変更する方法だ。ETC2.0を早期に導入することで、ドライバーが交通情報をリアルタイムに入手し、最も輸送時間の短いルートを選択することができる。

また、普段利用している輸送ルートの交通データを分析することで、交通事故や渋滞の多発する区間や燃費の悪い区間を避けるようなルート管理が可能になる。交通データの分析が難しければ専門家に相談してもよい。

物流事業者は、交通管理計画に従って配送手段や配送時間を変えたり、交通情報を効果的に入手して渋滞や事故を避け、多頻度小口配送やジャスト・イン・タイム輸送に対応していくてほしい。